
地球滅亡の救世主

森下しあ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

地球滅亡の救世主

【コード】

N0448Q

【作者名】

森下しあ

【あらすじ】

地球を救うことになったのだが、その過程で真実をしつてしまふ。SF短編。

10日前、それは突然に訪れた地球滅亡へのカウントダウンの始まりだった。

人類は荒れ狂い、秩序は乱れた。しかし、ただただ嘆き悲しむだけの人間達ではなかった。優秀な科学者が結束し、わずか9日で作り上げた。それは地球を救うものだった。

そして今日、私は地球を旅立った。「救世主」その名を背負い旅立った。

もうどのくらい経つただろう。振り向けば、地球など存在しなかったように黒い世界が広がるばかり。上や下や、そんな常識はもう存在しなかった。

代わり映えしない風景、そこまで行けば気が済むのだ。そんなとき、一つの声が現れた。

「あなたは愚かだ。」と、美しい声で言ったのだ。男か女かそんなこと、関係ないほど美しい。そんな声がこの広い、黒い世界の真ん中で、私の耳へと届いたのだった。

「なにがですか？」そういつたとき、その声は私の脳へと語りかけた。「あなたは迷ったことはありませんか？」そして私はこう答えた。「誰だっただろう。そんなこと。」

すると声はまた語り始めた。

「あなた達の存在意義。それは真なる世界にある。真なる世界の住人が、迷ったときに選ばれなかった選択肢、それがあなた達の存在です。」

私は驚愕し、声を出すことさえ出来きず、思考回路は完全に停止した。

「今も常に枝分かれし、その数はまもなく限界に達するでしょう。その世界を一度消去することが私たちの使命なのです。ですから、どうか悪く思わないで下さい。」

そう言い終えると声は消え、光につつまれる。

もう何も、もう何もかも存在しないこの世界。
次消去される日はいつたいつになることか。

(後書き)

初めてのSF作品です。

私は星新一さんのショートショートが大好きなので、挑戦してみました。星さんにはほど遠いですが、お読みいただきありがとうございます。

もし良ければ、評価やご感想をお聞かせください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0448q/>

地球滅亡の救世主

2011年1月9日00時57分発行